科目名	救急救護倫理特論	分野・必選別・単位数	基礎科目	必修	2単位

担当教員	◎教授　窪田和弘						
課程	修士	配当年次	2年	配当学期	前期	授業方法	講義

授業の概要	活動時間や使用資器材等の制約の下で傷病者に最適な回答を見い出さなければならない救急救護活動は、倫理的問題（ジレンマ）の巣窟であり、生命倫理に根ざした特異的側面を有する未開拓の分野である。倫理の基本概念や4原則を理解し、救急救護の倫理綱領の構築を模索し、さらに現場で遭遇する倫理的ジレンマを内在するケースでの解決法・対応マニュアルについて検討を行う。
授業の到達目標	①救急救命士の資質、プロフェッショナリズム、社会的役割など、救急救護者としての重要な要素を説明できる。 ②倫理的ジレンマを認識し、具体的な解決法を提示できる。 ③救急救護の倫理綱領及び倫理的ジレンマへの対応マニュアルについて説明できる。

授業計画

回数	担当者	行動目標
1	窪田　和弘　　教　授	救急救護者の資質 救急救護者としての資質、能力、態度、社会的役割及び活動特性を踏まえたチームのあり方を説明できる。
2	窪田　和弘　　教　授	プロフェッショナリズム 救急救護における専門的職業人としての資質・責任について説明できる。
3	窪田　和弘　　教　授	倫理の概念（1） 倫理と法、道徳との関連、及び倫理の4原則を説明できる。
4	窪田　和弘　　教　授	倫理の概念（2） 救急救護における倫理的概念の意義について説明できる。
5	窪田　和弘　　教　授	救急救護者の倫理綱領（1） 医師、看護師、救急救命士の倫理綱領をクリティカルシンキングで捉え、救急救護活動に重要な倫理的要素について説明できる。
6	窪田　和弘　　教　授	救急救護の倫理綱領（2） 倫理綱領の策定演習を通して、基本目標からこれらの実現の方法などを、救急救護を形成する要素をまとめ倫理綱領を策定し、その導入概念と意義について、説明できる。
7	窪田　和弘　　教　授	救急救護の倫理綱領（3） 倫理綱領の策定演習を行い、基本目標からこれらの実現の方法などを、救急救護の形成要素をまとめた倫理綱領を策定し、その導入概念と意義について、説明できる。
8	窪田　和弘　　教　授	救急救護の倫理綱領（4） 策定した倫理綱領を発表・検証し、救急救護体制に反映できる要因を説明できる。
9	窪田　和弘　　教　授	救急救護活動時における倫理的ジレンマのケーススタディ（1） 危機的状況下で発生する倫理的ジレンマへの基本的なアプローチ法を説明できる。
10	窪田　和弘　　教　授	救急救護活動時における倫理的ジレンマのケーススタディ（2） 危機的状況下で発生する倫理的ジレンマへの基本的なアプローチ法を説明できる。
11	窪田　和弘　　教　授	救急救護活動時における倫理的ジレンマのケーススタディ（3） 守秘義務、医療機関搬送、資源配分等の倫理的ジレンマの解決策を説明できる。
12	窪田　和弘　　教　授	救急救護活動時における倫理的ジレンマのケーススタディ（4） 守秘義務、医療機関搬送、資源配分等の倫理的ジレンマの解決策を説明できる。
13	窪田　和弘　　教　授	救急救護活動時における倫理的ジレンマへの対応（5） 危機的状況における対応マニュアルの策定し、その要点を説明できる。
14	窪田　和弘　　教　授	救急救護活動時における倫理的ジレンマへの対応（6） 組織対応（実践システム）要領を策定し、その実践的手法及び要点を説明できる。
15	窪田　和弘　　教　授	総括

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		
	【事前学修】	ケーススタディの題材として、倫理の4原則｛善行（慈善）、無危害（有益）、自律、公平（正義）｝の観点から扱い事例を集めておくこと。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。

教科書	窪田和弘 病院前救護学　その理論と実践　　近代消防社
参考書	・岡崎寿美子・小島恭子、ケアの質を高める看護理論－ジレンマを解決するために、医歯薬出版株式会社 ・井部俊子　医療倫理学ABC　メヂカルフレンド社
成績評価の方法および基準	授業中の発言・発表・討議50％、演習の課題レポート50％
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP1が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。